

校正証明書

依頼者名 〇〇〇〇〇
依頼者住所 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
品名 小形19本組標準比重計
測定範囲 〇〇〇
目量 〇〇〇
器物番号 〇〇〇
検査結果 (次頁のとおり)
校正年月日 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日
校正方法 衡量法 「安藤計器－温度計校正実施手順書」による
校正実施場所 当社浮ひよう校正室

上記計測器は、当社の標準器校正体系に基づき、国家標準にト
レースされた標準器で校正を行い、検査したことを証明します。

発行日：
〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

東京都板橋区仲町31-1
株式会社 安藤計器製工所
計量校正研究所
所長 〇〇〇〇

本書は計量法第122条第1項の計量士により品質管理されております。
(経産省登録:第13472号)

(独)製品評価技術基盤機構では、「使用頻度、使用履歴、特性等を考慮し、実態に即した
校正周期を設定することが望ましい」としています。弊社では「1年」「2年」又は「3年」と考えます。
ただし、「校正証明書は校正周期に関する推奨を含んではならない。(JIS Q 17025)」より、
上記等を参考に適正な校正周期はユーザー様に判断・決定していただいております。

1. 校正結果

表す比重	器差	校正値※1	拡張不確かさ ($k=2$)	補正に使用した 被測定液体の表 面張力値※2 (mN/m)
○○○	○○○	○○○	○○○	○○○
○○○	○○○	○○○	○○○	○○○
○○○	○○○	○○○	○○○	○○○

※1:校正値は、表す比重から器差を減じた値です。 校正値＝表す比重－(器差)

※2:被測定液体の表面張力は、JIS B 7525-3(2018)表B.3－表面張力の標準値の値を用いて算出した値です。

2. 校正条件

- ・ 校正結果は、標準温度15℃における値です。
- ・ ガラスの熱膨張係数は、0.000025/℃としました。
- ・ この比重計は上縁で読取りました。
- ・ 校正時の環境条件は、以下の通りです。
温度： 19℃～21℃
湿度： 43%～53%
気圧： 1024 hPa～1026 hPa
- ・ 比重への変換は、JIS Z 8804によります。
- ・ 基準とした水の温度は4℃です。

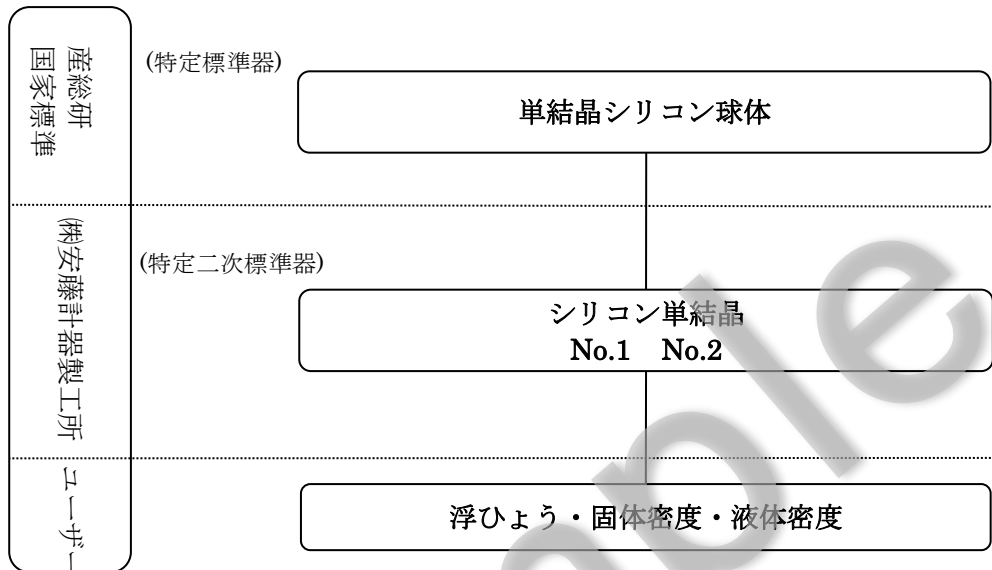
3. 使用した標準器

- ・ シリコン単結晶 No.1
有効期限 ○○○○年○○月○○日

以上

《密度標準トレーサビリティ体系図》

当社の標準器は、下記体系図に示すように国家標準にトレーサブルであることを証す。



※産総研：国立研究開発法人産業技術総合研究所

jCSS		総数 2 頁の 1 頁 第 185172 号		jCSS		総数 2 頁の 2 頁 第 185172 号	
校正証明書							
依頼者名	株式会社 安藤計器製工所	校正実施条件	空気温度 / °C	相対湿度 / %	大気圧力 / kPa		
依頼者住所	東京都板橋区仲町31-1	質量測定実施条件	20.54~20.57	42~46	99.22~102.24		
校正実施場所	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 つくば中央第三実務所	体積測定実施条件	20.50~20.54	46	101.15~101.51		
特定二次標準器名	シリコン単結晶						
製造者名	有限会社 岡本光学加工所						
型式・器物番号	201 g シリコン単結晶・No.1						
校正方法	単結晶シリコン球体 (特定標準器 S4 及び S5) の密度を基準とした 液中ひょう量法による固体密度測定						
校正実施条件	2 頁のとおり						
校正結果	2 頁のとおり						
受付年月日	2018 年 4 月 10 日						
校正実施年月日	2018 年 4 月 10 日 ~ 2018 年 5 月 23 日						
以上に相違ないことを証明する							
校正責任者 計量標準総合センター 早稻田 篤 早稻田 篤							
発行日	2018 年 5 月 25 日	校正結果					
発行者 東京都千代田区霞が関一丁目3番1号 国立研究開発法人 産業技術総合研究所		値	拡張不確かさ				
理事長 中鉢 良治		密度	2329.0797 kg/m ³	0.0088 kg/m ³			
この証明書は、計量法第 136 条第 1 項に基づく特定標準器による校正の結果を示すものである。 事前の承認なしに、この証明書の一部分のみを複製してはならない。							
校正証明書 シリコン単結晶 No.1							
○ ○ ○ ○ 年 ○ ○ 月 ○ ○ 日 株式会社 安藤計器製工所 計量校正研究所							